

# 知的障害者の意思を重視した生活支援のあり方について (デイケア、ナイトケア、余暇活動全てを含んだ生活の質の向上を目指して)

風の子そだち園・主任 榎本 多美子

表現について、一部現在では使用しないもの又は言い換えられているものがありますが、歴史的見地から当時のまま掲載しています。ご了承下さい。

## 研修の目的

近年、ようやく日本でも知的障害者の人権擁護や自己決定、地域生活支援などについて語られるようになってきた。しかし、重い障害をもつ人たちの家族は疲れ果て、十分なサポートのないまま、中には、「親が元気なうちに、何とか入所施設に入れることが、最も幸せな道だ」と考えている家族もある。また、比較的軽度の人でも、施設と家との往復だけで、帰宅後はテレビを見ることしか楽しみがない、友だちがいない、休日にする事ができない等、私たちの考える「当たり前の生活」とは程遠い生活を送っている人が多い。

知的障害者の通所更生施設、風の子そだち園に筆者が勤務して 12 年が経った。その間、家庭での生活が困難な場合の緊急的援助、家族へのレスパイトサービスとしての生活合宿、自立に向けての作業センターやグループホームの運営等、様々なサービスを提供し、家族と相談、協力しながら、障害者の地域生活を支えてきた。また、同法人が運営する発達障害児の通園施設、淡路こども園では、母子通園、家族への相談、きょうだいへの援助、学童期の障害児へのアフターケア等を行なっている。

これらの取り組みから、障害児者の地域生活を支えるためには、一貫した援助と家族への支援が欠かせないことを、筆者は実感している。本人が生き生きと生活するために、課題を無理に押し付けるのではなく、本人の意思を尊重し、周囲の人たちとの信頼関係を築くことが基本にあるのはいうまでもない。

今回の研修では、大規模入所施設が閉鎖され、知的障害者が地域で生活することが当たり前になっているカナダとアメリカを訪れ、彼らの生活を支えるために、日中活動の場、生活の場、余暇活動の場がどのように準備され、どういった形での支援体制があるのかを学ぶことを目的とした。また、援助の基本である本人の意思の尊重、日本では見落とされがちになっている、家族への相談や援助も併せて学びたいと考えた。

今回の研修期間の殆どをカナダで過ごした。従って、カナダでの福祉の状況を中心に、アメリカでの研修は特徴的なものだけを追加するという形で報告する。

(続く、全 24 頁)

## 以下目次

### **カナダにおける障害者福祉の概要**

- 1．ブリティッシュコロンビア州の例
- 2．協力し合うエイジェンシー

### **地域生活支援の実際**

- 1．Pavillon Du Parc における地域生活支援
- 2．サンダーベイにおける地域生活支援
- 3．家族支援について

### **重度知的障害者への支援**

- 1．重度知的障害者の生活
- 2．TEACCH プログラムについて

### **研修で感じた疑問、問題**

### **研修の成果と課題**